竹取物語（かぐや姫の生ひ立ち）　＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

今は昔、［　Ⅰ　］の翁(ア)といふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば讃岐の造となむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。翁、言ふやう、「わが朝ごと夕ごとに見る竹の中におはするにて、知りぬ。①子になり給ふべき人なめり。」とて、手にうち入れて、家へ持ちて来(イ)ぬ。妻の嫗(ウ)に預けて養はす。うつくしきこと限りなし。いと幼ければ、籠(エ)に入れて養ふ。

［　Ⅰ　］の翁、竹を取るに、この子を見つけてのちに竹取るに、節を隔ててよごとに、黄金ある竹を見つくること重なりぬ。かくて、翁、やうやう豊かになりゆく。

この児、養ふほどに、すくすくと大きになりまさる。三月ばかりになるほどに、よきほどなる人になりぬれば、髪上げなどさうして、髪上げさせ、裳着す。帳のうちよりも出ださず、いつき養ふ。この児のかたち、けうらなること世になく、屋のうちは暗き所なく光満ちたり。翁、心地悪(D)しく苦しきときも、この子を見れば、苦しきこともやみぬ。腹立たしきことも慰みけり。

翁、竹を取ること久しくなりぬ。勢ひ猛の者になりにけり。このの子いと大きになりぬれば、名を、御室戸斎部の秋田を呼びて、付けさす。秋田、なよ竹の［　Ⅱ　］と付けつ。このほど三日、うちあげ遊ぶ。よろづの遊びをぞしける。男はうけきらはず 呼び集(オ)へて、いとかしこく遊ぶ。世界のをのこ、あてなるもいやしきも、いかでこのかぐや 姫を②得てしがな、見てしがなと、音に聞き、めでて惑ふ。

問一　二重傍線部**ア**～**オ**の漢字の読みを現代仮名遣いを用いて平仮名で書きなさい。

問二　空欄Ⅰ、Ⅱに適語を入れなさい。

問三　波線部A～Gの語の意味として適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　悪い　　**イ**　美しい　　**ウ**　頭がいい　　**エ**　不思議に感じる　　**オ**　いらっしゃる
カ　上品だ　　**キ**　下品だ　　**ク**　身分が低い　　**ケ**　充実している　　**コ**　盛大に
サ　不足している　　**シ**　かわいらしい　　**ス**　見苦しい　　**セ**　身分が高い　　**ソ**　座っている

問四　二重波線部a～cの品詞名を答えなさい。

問五　傍線部①、②の現代語訳として適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

①
ア　（私の）子供になってくださるはずの人であるようだ。
イ　（天から授けられた）子供でいらっしゃる人であるようだ。
ウ　（私の）子供になるべき人でいらっしゃるようだ。
エ　（天へ戻る）子供でいらっしゃる運命の人であるらしい。

②
ア　手に入れよう、世話をしたいものだと、その評判を聞いて、心が引かれて迷う。
イ　妻にしたいものだ、会いたいものだと、音楽を聞きながら考え込んで、心が乱れる。
ウ　妻にしたいものだ、会いたいものだと、うわさに聞いて、恋い慕って心を乱す。
エ　手に入れよう、見てみようと、うわさに聞いて、心が乱れて取り乱す。

問六　翁が「三寸ばかりなる人」を連れて帰った理由が書かれている部分を本文中より抜き出し、その初めと終わりの五文字を答えなさい。（句読点は不要）

問六	問五	問四	問三	問二	問一
	①	a	A	Ⅰ	ア
	②		B		
		b	C	Ⅱ	イ
ヽ			D		
		c	E		ウ
			F		
			G		エ
					オ

学年
組
番号
氏名
得点

竹取物語（かぐや姫の生ひ立ち）＊

〔出題の意図と留意点〕　よく知られた「かぐや姫の生ひ立ち」。重要古語を押さえ、しっかりと内容把握を行いたい。**問二**は主要登場人物名。**問五**①は尊敬「給ふ」と「なめり」に、②は「てしがな・見る・音」に注意させたい。**問六**は、翁がかぐや姫を我が子とした理由。

☆解答例と配点

問一　ア　おきな　　イ　き　　ウ　おうな　　エ　こ　　オ　つど　〈2点×5〉

問二　Ⅰ　竹取　　Ⅱ　かぐや姫　〈3点×2〉

問三　A　エ　　B　オ　　C　シ　　D　ア　　E　コ　　F　セ　　G　ク　〈2点×7〉

問四　a　接続詞　　b　副詞　　c　形容動詞　〈2点×3〉

問五　①　ア　　②　ウ　〈5点×2〉

問六　わが朝ごと～き人なめり　〈4点〉

計50点

竹取物語（かぐや姫の生ひ立ち）＊＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば讃岐の造（アA）となむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。翁、言ふやう、「わが朝ごと夕ごとに見る竹の中におはするにて、知りぬ。子になり給ふべき人なめり。」とて、手にうち入れて、家へ持ち来（イ）ぬ。妻の嫗に預けて養はす。うつくしきこと限りなし。いと幼ければ、籠（ウ）に入れて養ふ。

竹取の翁、竹を取るに、この子を見つけてのちに竹取るに、節を隔ててよごとに、黄金ある竹を見つくること重なりぬ。①かくて、翁、やうやう豊かになりゆく。

この児、養ふほどに、すくすくと大きになりまさる。三月ばかりになるほどに、よきほどなる人になりぬれば、髪上げなどさうして、髪上げさせ、裳（エ）着す。帳のうちよりも出ださず、いつき養ふ。この児のかたち、けうらなること世になく、屋のうちは暗き所なく光満ちたり。翁、心地悪（D）しく苦しきときも、この子を見れば、苦しきこともやみぬ。腹立たしきことも慰みけり。

翁、竹を取ること久しくなりぬ。勢ひ猛の者になりにけり。このころ三日うちあげ遊（エE）ぶ。よろづの遊びをぞしける。この子いと大きになりぬれば、名を、御室戸斎部の秋田を呼びて、付けさす。秋田、なよ竹のかぐや姫と付けつ。このほど三日、うちあげ遊（エE）ぶ。よろづの遊びをぞしける。男はうけきらはず呼び集（オ）へて、いとかしこく遊ぶ。世界のをのこ、あてなるもいやしきも、②いかでこのかぐや姫を得てしがな、見てしがなと、音に聞き、めでて惑ふ。

問一　二重傍線部**ア**～**オ**の漢字の読みを現代仮名遣いを用いて平仮名で書きなさい。

問二　傍線部①、②の品詞名を答えなさい。

問三　波線部A～Hの語の意味を答えなさい。

問四　点線部1「子になり給ふべき人なめり」の「子」に含まれるもう一つの意味は何か、本文中から抜き出して答えなさい。

問五　点線部1、2を現代語訳しなさい。

問六　点線部3の、翁が「やうやう豊かに」なった理由を答えなさい。

問七　翁が見つけて家に連れて来た子供の、普通の人間の成長と違う点について簡潔に説明しなさい。

問 七	問 六	問 五		問 四	問 三			問 二	問 一
		2	1		G	D	A	①	ア
								②	イ
					H	E	B		ウ
									エ
						F	C		オ

学 年
組
番 号
氏 名
得 点

竹取物語（かぐや姫の生ひ立ち）＊＊

〔出題の意図と留意点〕　重要古語を押さえ、しっかりと内容把握を行いたい。**問二**①は副詞ではないことに注意。**問五**①は「給ふ」と「なめり」に、②は「てしがな・見る・音・めづ」に注意したい。**問六・七**はかぐや姫の不思議な力と異常さを捉えさせたい。

☆解答例と配点

問一　ア　みやつこ　　イ　き　　ウ　こ　　エ　も　　オ　つど　〈2点×5〉

問二　①　接続詞　　②　副詞　〈3点×2〉

問三　A　不思議に感じる　　B　かわいらしい　　C　清らかで美しい　　D　悪い
　　E　詩歌管弦をして楽しむ　　F　盛大に　　G　身分が高い　　H　身分が低い　〈2点×8〉

問四　籠　〈2点〉

問五　1　（私の）子供になってくださるはずの人であるようだ。　〈4点×2〉
　　2　妻にしたいものだな、会いたいものだなと、うわさを聞いて、恋い慕って心を乱す。

問六　子供を連れ帰った後、黄金の入った竹を取ることが続いたから。　〈4点〉

問七　10センチほどの人が、三か月くらいで一人前の大きさになってしまった点。　〈4点〉

計50点